

ふくしま教育ニュース

2017年11月 第48号 編集・発行 福島県教育委員会



平成29年4月 新しい学校が開校しました!

県立小高産業技術高等学校

昨年度までサテライト校として教育活動を続けてきた小高商業高等学校と小高工業高等学校を統合し、小高産業技術高等学校が開校しました。県内で唯一、文部科学省から、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を目指すスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)に指定され、「東日本大震災・原発事故からの地域復興を担う人材育成」に向けた、商業科と工業科が連携した学習プログラムの開発に取り組み、地域全体の復興や福島イノベーション・コースト構想の推進に寄与する人材の育成に向けた教育を充実します。今後の生徒たちの活躍に御期待下さい。



【開校式における校旗披露】

県立たむら支援学校・県立石川支援学校たまかわ校

田村市に県立たむら支援学校(小学部・中学部・高等部)、玉川村に県立石川支援学校たまかわ校(小学部・中学部)が開校しました。たむら支援学校の開校式では、内堀知事から「豊かなところと健やかな身体を育み、夢や希望に向かって、成長していただくことを願っております。」と温かい言葉をいただきました。石川支援学校たまかわ校の開校式では、鈴木教育長から「新しいこ



【たむら支援学校】



【石川支援学校たまかわ校】

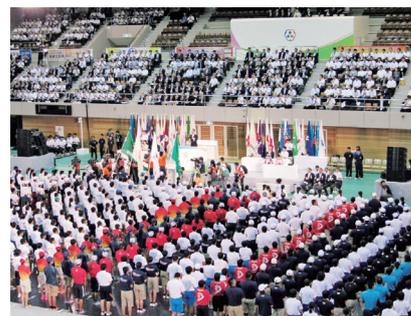
と積極的に取り組みながら、みんなで力を合わせて新しい伝統を築きあげていってください。」と励ましの言葉がありました。

この2校を含めた県内23校の県立特別支援学校の児童・生徒には、自分たちの夢の実現に向け、笑顔があふれる学校生活を送って欲しいと思います。

はばたけ世界へ 南東北総体 2017

福島、山形、宮城の南東北3県で開催された平成29年度全国高等学校総合体育大会(本県開催10競技11種目)の全日程が終了しました。

本県選手団は、バドミントン競技5種目、陸上男子1500mの優勝をはじめ、昨年度を上回る立派な成績を収めました。また、競技運営全般を支えた教員・高校生の活躍により、高校生スポーツ最大の祭典にふさわしい素晴らしい大会となりました。



【総合開会式(山形県)】

「放射線・防災教育フォーラム」

11月15日(水)に環境創造センターを会場に開催した「放射線・防災教育フォーラム」では、県内7地区の実践協力校(佐倉小学校、三春中学校、西郷第一中学校、行仁小学校、明和小学校、富岡第一・第二中学校、江名中学校)がこれまでに地域や関係機関と取り組んできた学習の成果を紹介し、相互に交流しました。



【学習成果の発表の様子】

また、お昼は日本赤十字社福島県支部提供の炊き出し(ハイゼックス炊飯)を試食し、午後は関係機関による体験活動や展示の見学、そして「これからの放射線・防災教育」をテーマにしたシンポジウムを通して、学びを深めることができました。

「県庁にみんなの声を届けよう!」プロジェクト

今年のテーマは「仕事」。参加した小学5・6年生38名は、子ども記者クラブとして、県庁各課を取材後、自分たちが将来ふくしまとの関わりでどのような職業に就きたいか、知事や教育長の前で、意見発表しました。



【8月4日(金)杉妻会館にて】

尾瀬子どもサミット

美しい尾瀬の大自然や珍しい動植物との出会いを通して、環境保全について「何ができるか」を考えます。今年は、新潟、群馬、福島の各県から小・中学生59名が、8月1日(火)から3泊4日で尾瀬沼周辺のフィールド活動を行いました。さらに、尾瀬国立公園10周年、桜枝岐村村政100周年という記念すべき年での開催となり、記念バッジをつけて自然を満喫しました。



【青空の下でひと休み】

ふくしまっ子ごはんコンテスト

健全な食生活を実践する力(食べる力)の育成を図ることを目的として開催している「ふくしまっ子ごはんコンテスト」の最終審査が10月15日(日)、福島市において行われ、過去最多の13,605点の応募作品から書類審査を通過した小・中学生16名が作品の献立を調理しました。

入賞作品は、健康教育課のホームページに掲載するとともに、「子どもが作る地場産物活用健康レシピ」として配付しますので、ぜひご覧ください。



【最終審査の調理の様子】

地域の「きずな」を結ぶ 民俗芸能支援事業

本事業は地域のつながりの保持を図り、故郷に対する誇りや郷土愛を確認し、ふくしまの「きずな」再生への支援を推進することを目的としています。東日本大震災及び原発事故により被災した民俗芸能団体に対し、用具の新調や修理、稽古・公演に参集するための経費を支援しています。平成24～28年度の間で60団体に、本事業を活用していただきました。

学校
地域

地域の伝統芸能が再興することにより、震災から6年8ヶ月を経てもなお、避難を続けている方々に、故郷の「きずな」を感じていただけることを願っています。



【平成27年8月いわき市の沼ノ内諏訪神社】
熊川稚児鹿舞を披露(熊川稚児鹿舞保存会)

ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業 〈医療体験セミナー〉

9月18日(月・祝)に行われた、ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業「医療体験セミナー」に、県内の中学生385名が参加しました。午前中は、チーム医療の大切さについて学ぶ「白熱教室」が行われました。福島県立医科大学の木村隆医師に積極的に質問するなど、活発に意見を交換することで、医療に関わる職業の魅力に触れ、将来の夢や希望を大きく膨らませることができました。午後は、「内視鏡手術体験」「疑似採血体験」「薬剤分包体験」「歯科医師体験」「作業療法士体験」等、22ブースで体験活動を行い、医療に関する多種多様な職業についての理解を深めることができました。参加者にとって、夢に向かって力強く一歩を踏み出す一日となりました。

小学生
中学生



【内視鏡手術体験の様子】

教育フォーラム「読書で伝える“生きる”喜び」 ～中学生・高校生によるビブリオバトル2017 福島県大会～



【決勝のプレゼンテーション】

ビブリオバトルとは、参加者がお薦めの一冊の書評をプレゼンテーションし、観戦者が読みたくなる本を選んでチャンプ本を決定する知的書評合戦のことです。今年で3回目となる福島県大会は、11月11日(土)に郡山市中央公民館及び郡山市公会堂で行われ、午前中の中学生の部決勝には5人、高校生の部予選には21人が出場しました。午後からは、「読書で伝える“生きる”喜び」をテーマに教育フォーラムを開催し、高校生の部決勝を行いました。トークショーでは、絵本作家で、映画「君の名は。」の美術監督 丹治 匠氏をお迎えし、会場に集まった観戦者のみなさんと子どもたちが、様々な本に親しむきっかけをつくるとともに、望ましい読書習慣の形成に向けた想いを共有することができました。

中学生
高校生

平成29年度 科学の甲子園 福島県大会

科学の甲子園は、理数教育の充実の一環として、科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合う大会です。県内の科学好きの生徒等が集い、活躍できる場を提供することで、科学が好きな生徒の裾野を広げることを目的として、福島大学共生システム理工学類共催のもと実施しています。

今年度は、10月21日(土)に福島大学共生システム理工学類を会場として、県内の高等学校、高等専門学校1、2年生が学校単位で6名以上8名以内のチームを編成し、筆記競技、総合競技、実験競技で競い合いました。

総合成績1位のチームの安積高等学校チームは、平成30年3月16日(金)～19日(月)に行われる「第7回科学の甲子園全国大会」に福島県代表チームとして出場する予定です。



【制作したウインドカーによる競技の様子】

高校生



【表彰式】



【丹治 匠氏と対談する中学生】

ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業

将来、医療の仕事に携わり、本県の復興及び地域医療に貢献したいと願っている高校生の夢の実現に向け、次の2つの事業を実施しています。

〈地域医療体験セミナー〉

会場：県内6地区の医療機関

期日：平成29年8月～平成30年2月

医師、看護師やその他の医療従事者を進路希望とする高校1年生を対象として、各職種の仕事の体験を実施しています。



〈メディカルセミナー〉

会場：福島県立医科大学

期日：医学 平成29年7月15日(土)・16日(日)

看護 平成29年7月2日(日)

医師及び看護師を目指す高校2年生を対象として、最新の医学や地域医療についての講義、体験実習を実施しました。

ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業

県内各地に進路アドバイザーを34名配置し、県内で学ぶ高校生が震災や原発事故から復興を目指す本県で生活をする際の不安の払拭や復興を担う意識の醸成、生活基盤を築くための支援、県外に避難している高校生がふくしまに帰還し生活再建をするための支援を行っています。

また、本県出身の高校生が、大学等上級学校を卒業後、福島県に戻り、県内で生活基盤を築けるよう、地域企業の理解促進に繋げるインターンシップ、進路相談や生徒面談、ふくしまで働くことの意義の講話や社会人として自立するためのサポートなど、多岐にわたって支援をしています。



《お問い合わせ》株式会社福島人材派遣センター進路アドバイザー係 ☎024-521-5111

ふくしままで輝く子どもたち

子どもたちの資質・能力の育成を目指して

ふくしまの「授業スタンダード」・ 「家庭学習スタンダード」



「授業スタンダード」は、授業づくりや校内研修などに活用できる教員向けのリーフレットです。授業の基本的な流れや授業における子どもたちへの働きかけ、指導技術、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)等について掲載しています。

今年度、各小・中学校では、「授業スタンダード」を活用することによって、子どもたちが主体的に授業に取り組み、一人一人の学びが深まるような授業実践を積み重ねています。若手の教員も経験豊富な教員も、互いに学び合いながら指導力の向上に努めています。

「家庭学習スタンダード」は、望ましい家庭学習のあり方や学校の取り組み、保護者の関わり方などを掲載した教員及び保護者向けのリーフレットで、今年度中に作成・配付します。学校と家庭の連携・協働のもと、子どもたちの効果的な家庭学習を実現し、継続を図っていきます。

この2つのスタンダードを活用して、授業の質的改善や教員の指導力の向上及び家庭学習の充実を図り、ふくしまの未来を担う子どもたち一人一人の学力の向上を目指しています。

この2つのスタンダードを活用して、授業の質的改善や教員の指導力の向上及び家庭学習の充実を図り、ふくしまの未来を担う子どもたち一人一人の学力の向上を目指しています。



【いわき市立小川中学校 研究授業】



【桑折町立醸芳小学校 授業研究会】

相談窓口のお知らせ

いじめ、不登校、体罰などの様々なお悩みに対する相談窓口を開設しています。一人で悩まず、お電話ください。悩みを抱えているお子さんや保護者の方々が対象です。

〈いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談電話〉月～金 10:00～17:00

「ダイヤルSOS」

0120-453-141

〈子どものための24時間電話相談〉24時間いつでも電話できます。

「ふくしま24時間子どもSOS」

0120-916-024



※県教育委員会ではHP等の掲載広告を募集しています。詳しくは

福島県教育委員会 広告

検索

ここから下の段は広告です。掲載の広告は県教育委員会の事業とは関係ありません。

動画でご覧ください

日本全国で
2,000万件超が
加入する理由 公開中!

●充実の保障ラインナップ

こども型

総合保障型

入院保障型

熟年型

熟年入院型



スマートフォンでも
ご覧いただけます。

スマホで見えてね!

助けあいの心から生まれた保障

県民共済

お問い合わせと資料のご請求は

共済取扱団体 福島県民共済生活協同組合
〒960-8031 福島市栄町6-6 NBFユニックスビル9F
フリーダイヤル 0120-282-869

FAX 024(524)1400 福島県民共済 検索

【受付時間】平日 9:00～17:00 共済元受団体/厚生労働省認可 全国生活協同組合連合会